

地球の笑顔のために

生産・サービスの各プロセスで環境負荷を低減

安全・安心な商品を将来にわたってお届けするためには、地球環境への配慮が不可欠です。事業による環境への影響を正確に把握し、環境負荷を減らすための様々な活動に取り組んでいます。



フロン漏えい防止のための取り組み

当社グループでは、冷凍・空調機器に使用するフロン冷媒の漏えい量削減に重点的に取り組んでいます。2016年度は、東扇島第二冷蔵庫と八戸東洋(株)で、フロンから自然冷媒(アンモニア・CO₂)に切り替えました。また、各冷蔵庫の担当者を対象に環境ミーティングを実施し、フロン冷媒漏えい防止に向けた課題を検討しました。今後も自然冷媒への切り替えを計画的に進めるとともに、日常の点検・整備を徹底し、漏えい量の削減に努めます。



環境ミーティングでの現場巡回

フロン冷媒漏えい量ゼロを目指して

冷蔵庫では大量のフロン類を冷媒として使用するため、漏えい防止策として、日々の点検の徹底が重要です。また、冷却設備の運転状況を定期的に確認し、適正な庫内温度を維持することで、エネルギー使用量の削減にも取り組んでいます。今後もフロン冷媒漏えい量ゼロを目指し、取り組みを進めます。



水産食品・冷蔵部
冷蔵倉庫部門
小林 基樹

VOICE

ビオトープ見学会の実施

▶ 関東工場

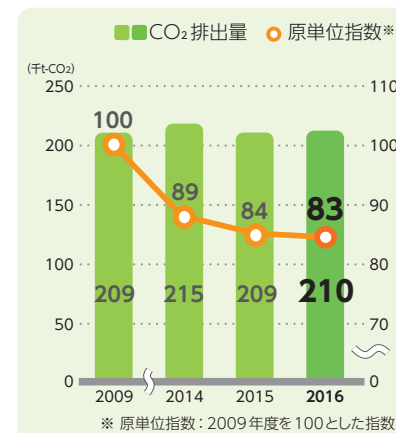
関東工場では、自然環境の保全と開発との調和を目指し、敷地内に地域の自然を再現したビオトープを設けています。季節の草花を楽しみながら散策できるようになっており、2016年7月には、地域の方を対象にした見学会を実施しました。



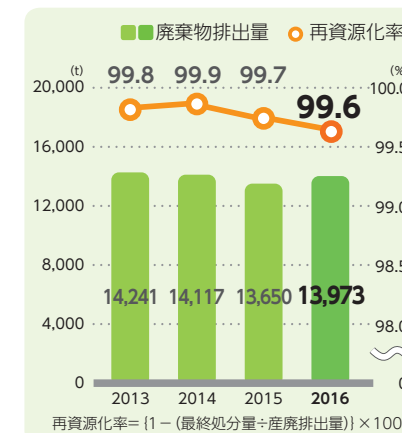
ビオトープ見学会

環境負荷データの推移 (国内グループ事業所)

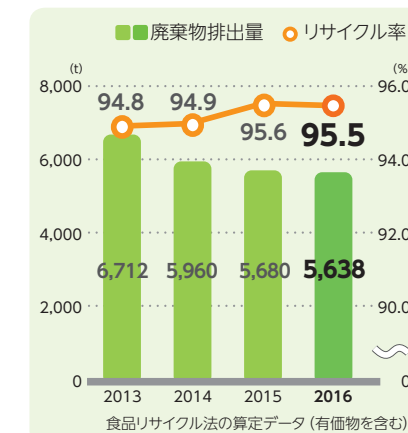
▶ CO₂ 排出量と売上高原単位



▶ 産業廃棄物排出量と再資源化率



▶ 食品廃棄物の排出量とリサイクル率 (東洋水産単体)



省エネ法に定めるCO₂排出量の原単位年1%の削減に取り組んだ結果、売上高の増加に対し、排出量はほぼ横ばいとなり、原単位指数は1ポイント低下しました。

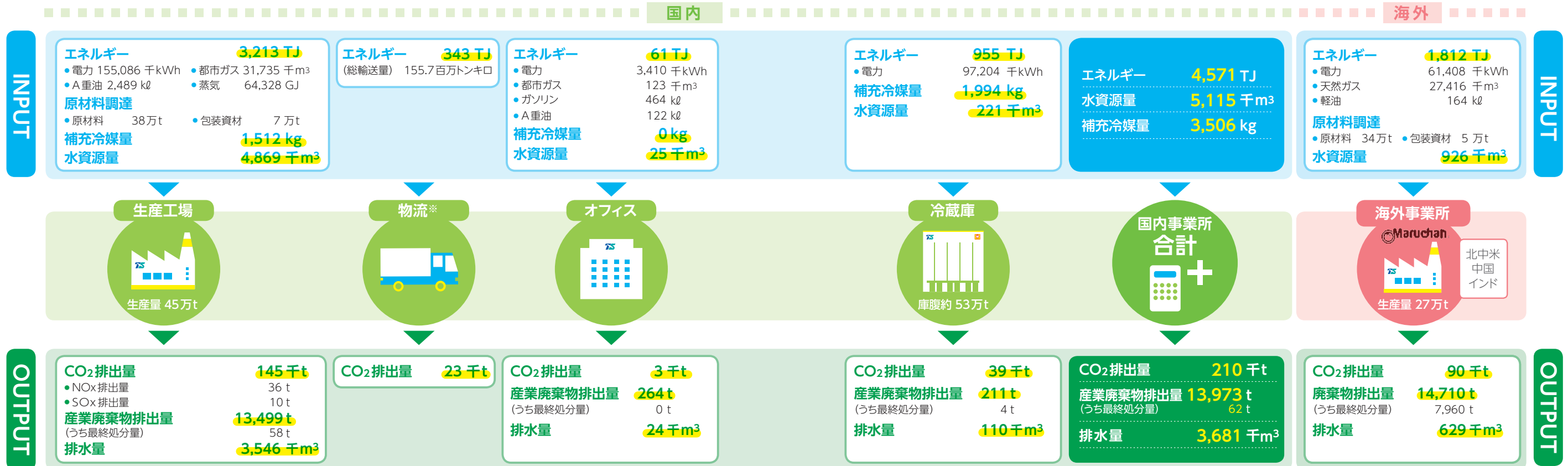
工場新設や事業所移転に伴う廃棄物が発生したため、排出量は微増となりました。一部廃棄物の処分方法が変更されたことにより、再資源化率はわずかに低下しました。

工場での製造トラブル削減や適正な製品在庫数の維持に取り組んだ結果、排出量は微減となりました。リサイクル率は法令に基づく食品製造業の目標値95%をクリアしました。

CO₂ 排出量算出の根拠

- ▶ 電力: 電気事業連合会 2009年度実績に基づく使用端CO₂排出原単位 (0.351kg-CO₂/kWh) を使用
- ▶ 電力以外: 温対法の換算係数を使用
- ▶ 使用冷媒: IPCC4次レポート「地球温暖化係数 (GWP)」を使用

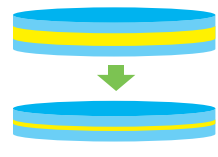
環境負荷データ (グループ全体)



※ 物流は、省エネ法 (特定荷主) における東洋水産 (株) 単体の適用範囲より算定

① 資材使用量の削減

2016年度はカップ麺の一部商品について、フタに使用するアルミの量を15%削減しました。また、原料の荷姿の変更等により、包装資材の削減を行いました。



アルミの層を薄くして、アルミ使用量を削減

② 物流の効率化

西日本地区の物流拠点として2016年8月に竣工した関西物流センターでは、自動倉庫の設置やシートパレットの導入により、作業時間の短縮や輸送の効率化を図りました。



関西物流センター

③ LED照明の導入

省エネの取り組みの一つとして、LED照明の導入を推進しています。2016年度は品川TSビルや冷蔵庫部門等で切り替えを進め、2017年3月末現在で、約44%がLED照明となっています。



LED照明を用いた冷蔵庫内

④ 廃棄物管理の徹底

廃棄物の不法転売や、不法投棄等のリスクへの対応として、委託した廃棄物の処理状況を定期的に視察している他、必要に応じて社員が処理に立ち会う等の対応を行っています。



埼玉工場による視察